



時代の転換期における 企業の存在意義

三菱重工業社長

泉澤清次

いずみさわ せいじ

人 新世とも呼ばれ、近年人類が生態系に与えてきた急激な変化は、環境・食糧・エネルギーなどの社会

課題として噴出し、地球の許容値を超えようとしている。他方、政治・経済においては戦後世界の安定を支えてきた秩序が揺らぎ、経済活動の基盤である資本主義が行き詰まっているようにも見え、後に歴史を振り返ったときに大きな転換点として語られる時代に私たちは生きている。

全地球的な課題であるカーボンニュートラル社会の実現やグリーントランスフォーメーション(GX)、エネルギーセキュリティなど、複雑な課題の解決には従来のアプローチでは解が見いだせない。これまでの二項対立から二項調和への価値転換、あるいは新たな価値の創造へのアプローチが必要であり、環境と経済、個人と全体、持てるものと持たざるものとの格差など相反するものを包摂することが重要だと強く感じている。経済と環境という対立した課題についても、企業経営者は叡智を集め、協力して乗り越えていくべきであろう。

日本には古くから「共生(ともいき)」という言葉がある。地域・環境・自然との共

生(きょうせい)、そして、過去から現在さらに未来へとつながる時間の流れの中で、後世に技術や経験、知のバトンをつないでいく考え方である。

特に、アジアの各国からは、社会課題解決に対し日本の技術・資本・人的リソースなどあらゆる面での協力が期待されており、この「共生(ともいき)」の理念を基に、日本らしいリーダーシップで貢献していきたいと考える。今を生きる私たち企業の存在意義は、経営を通じ人々の安全・安心そして快適な暮らしの実現に寄与し、確かな未来を次世代へバトンタッチすることなのだと感じている。

世界における日本の果たす役割はこれまで以上に増しており、経団連の活動が、課題解決へのリーダーシップとなり、価値への共感が国内外へ広がるよう、微力ながら貢献していきたい。

副会長として十倉会長のもと、防衛、エネルギー、脱炭素化などの諸課題について複雑さを増す国際社会の中で日本が存在意義を示せるように大いに議論し、愚直に取り組んでいきたいと思う。関係諸氏のご支援をお願いする。